



心理学部 心理学科

准教授 **森本 文人 MORIMOTO Fumihito**

専門・活動分野 **知覚認知心理学、生理心理学、工学心理学**

最新の研究内容

テーマ：**注意・集中状態の時間的な変動に関する検討**

研究/活動紹介

<実験中の脳波測定>



①日常の行動を心理学実験で解き明かす

心理学は日常に密接した学問です。起きてから寝るまでのあらゆる行動（実は睡眠も）が対象になります。例えば、普段何気なく行っている自動車の運転におけるうっかりミスや不注意はなぜ起きるのでしょうか。我々は何に注意を向けやすく、何が我々の注意を奪いやすいのでしょうか。それらを明らかにすることで、エラーが起きにくい、そして安全な環境を構築することが可能になります。

これまで心理学実験場面において脳機能や視線の計測を行い、ヒトの注意という機能のメカニズムについて調べてきました。見落としや聞き落としを含むヒューマンエラーがどのような環境で起きやすいか、適切なタイミングで適切なものに注意を向けやすくなるのに必要な要因などについて検討しています。

②良いサービスの提供・良いものづくりへの貢献

心理学実験における「生理指標（身体の変化; 脳波、心拍、精神的発汗、視線など）」は当然その時の心的な状態（心の変化; 喜怒哀楽、注意・不注意など）を反映します。ある場面での心的な状態を客観的なデータとして提供できる生理心理学は、サービスは商品の感性評価などに応用され得る、より良いサービスやものづくりの提供につなげることが出来るものです。

これまでは、家具メーカーとの共同研究（安楽椅子の座り心地の検討）、下着メーカー（付け心地の評価）や自動車メーカーとの共同研究の経験があり、より人に伝わりやすいサービス、人にやさしいものづくり（人間工学・工学心理学）に貢献したい思いがあります。

<講演会の様子>



産学連携/地域貢献へのアピールポイント、相談可能事項

- ・ 越前和紙の心理的な利点を明らかにした一連の実験を行った経験もあります。ものづくりや新しいサービスの構築などに「人を測る」という手段で貢献したいと考えています。
- ・ 見落としや聞き落としなどのヒューマンエラーのメカニズムや、ヒトの注意・不注意に関して、あるいはそのメカニズムを利用したヒトの錯覚や虚偽検出（ウソ発見）について福井県労働基準協会南越支部会などでの講演経験があります。

学会・経歴

- ・ 日本心理学会
(認定心理士の会北陸支部幹事)
- ・ 日本生理心理学会
- ・ 北陸心理学会 (編集委員)
- ・ Society for Psychophysiological Research
- ・ 非常勤講師 (関西学院大学、佛教大学などを歴任)

<お問合せ窓口>

仁愛大学 地域共創センター TEL 0778-43-6576 e-mail collabo@jindai.ac.jp